

# 令和6年度海田町総合教育会議

## 議事録(要旨)

1. 招集年月日 令和6年8月21日(水)
2. 招集の場所 海田町役場 4階委員会室
3. 開会(開議) 令和6年8月21日(水) 13時30分宣告
4. 出席者

町長 竹野内 啓佑 教育長 森山 真文

委員 林 孝 委員 米丸 禎宏 委員 大野 恵美子

委員 竹岡 美佳

5. 事務局の職氏名

副町長 山崎 真紀 企画部長 脇本 健二郎

福祉保健部長 森川 雅枝 教育次長 新藤 正敏

かいたブランド課長 石田 順也 学校教育課長 小村 孝広

こども課長 大村 隆 学校教育課課長補佐 重西 康平

学校教育課主査 流出 陽介 かいたブランド課員 阿部 夏希

6. 本日の議事日程

議題 海田東小学校校舎建替基本構想(最終案)について

7. 議事の内容

13:30 開始

○司会 かいたブランド課長（石田）

それでは令和6年度海田町総合教育会議を始めさせていただきます。

まず、開会に当たりまして、町長の竹野内より御挨拶申し上げます。

○町長（竹野内）

皆さんこんにちは。本日は暑い中、そして御多用の中、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議のテーマは海田東小学校校舎建替基本構想最終案でございます。半年前に開催しました前回の会議では基本構想の骨子について意見交換させていただきました。その後、教育委員会におきまして、保護者そして教職員の皆様へのアンケートを実施し、先進地視察などを経るなど、検討を重ねてまいりました。そしてこの度、そうした意見や知見を踏まえた最終案を整理しました。海田町の未来を担う海田東っ子の子供たちが、楽しく学ぶことを通して、「明日もまた学校に行きたい」と思えるような、そして地域の皆様が誇りに思えるような学校づくりを進めてまいりたいと考えております。本日の会議では未来志向で、そして建設的な意見交換ができることを期待いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○司会 かいたブランド課長（石田）

これより議事に移ります。ここからの進行については町長にお願いいたします。

○町長（竹野内）

それでは、この会議の設置目的に即した有意義で活発な意見交換ができればと考えておりますので、よろしく願いいたします。まずは、議題について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 学校教育課長（小村）

お手元に資料1から資料4まで準備させていただいております。本編は資料4で、資料3については、その概要版になっております。本日は、この概要版を中心に資料1から3までの説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは「海田東小学校校舎建替基本構想最終案」につきまして説明をさせていただきます。

まず資料1をご覧ください。基本構想の策定に向けたこれまでの主な検討状況と、今後のスケジュールについて説明をいたします。「1 基本構想策定に係るこれまでの検討状況」を御覧ください。令和6年2月の総合教育会議におきまして、基本構想骨子案について御説明して以降、同月に保護者と教職員向けに海田東小学校の建替えに関するアンケート調査を実施いたしました。4月には、第1回保護者説明会を開催し、基本構想骨子案に加えて、アンケート調査の結果について御報告いたしました。その後、第1回目の検討部会や保護者説明会でいただいた御意見、アンケート調査の結果等を踏まえ、素案を作成し、7月の文教福祉委員会や第2回保護者説明会でお示しさせていただき、その際にいただいた御意見などを踏まえ、本日御説明する最終案を取りまとめ

たところでございます。今後の予定も含めたスケジュールにつきましては、

「2 スケジュール (予定)」を御覧ください。本日の総合教育会議後には、町議会にも最終案について説明した上で、8月下旬に基本構想を策定し、町民の皆様にも公表させていただきたいと考えております。

続きまして、資料2を御覧ください。「海田東小学校校舎建替に係る整備方針 (案) について」でございます。

当初は本館のみ建て替えるということで検討を進めておりましたが、検討部会や保護者説明会での御意見、保護者・教職員向けアンケート調査の結果等を踏まえ、建替対象施設や、建替に係る業務の発注方法、これらについて「2 整備方針」のとおり整理をいたしました。まず、「(1) 建替対象施設について」でございます。当初予定しておりました本館に加えて、新館、給食室を一体的に建て替えることといたしました。なお、給食室につきましては、将来的に町立中学校の給食についても集中的に調理し、提供することを見据えた規模の整備をしていく予定でございます。また、児童クラブを利用する児童の安全確保、利便性向上の観点から、現在、町民センター内にある児童クラブを建替後の校舎に移設する方向で整備を進めてまいりたいと考えております。次に、「(2) 建替に係る基本計画・基本設計・実施設計業務の発注方法について」でございますが、事業期間の短縮を目指して、基本計画、基本設計、実施設計業務を一括発注することによって、各業務発注にかかる期間を極力省き、事業期間の短縮を目指したいと考えております。

2 ページを御覧ください。こちらは今御説明した建替対象施設を示した図になります。今回一体的に建替える本館，新館，給食室について赤く色付けをしております。体育館とプールは継続して使用する予定でございます。

3 ページを御覧ください。建替えのスケジュールについてですが、「3 想定スケジュール」のとおり，本館のみの建替えを検討していた段階から変わらず，令和 11 年 4 月からの供用開始を目指してまいります。

それでは，資料 3 「海田東小学校校舎建替基本構想（最終案）について」を御覧いただければと思います。先ほど御説明したように，建替対象施設等が当初から大きく変わっておりますので，こうした変更を踏まえて案を作成しております。

最終案の本体は資料 4 のとおりでございますが，本日はこの概要版によって説明を行います。

1 ページを御覧ください。「1 海田町立学校の校舎建替の基本理念」でございます。

これから町内の小学校を建替えていくにあたり，町としての基本的な考え方を根底に据えて取り組めるように，基本理念を整理いたしました。基本理念は，資料の右側にありますように，「つくる，つづく，つながる」の三つをキーワードとして整理をしております。

続いて 2 ページを御覧ください。「10 学校職員，保護者等からの校舎建替に係る意見」でございます。基本構想策定の参考とするために 2 月に実施した

アンケート調査の結果や、学校関係者からのヒアリング、保護者説明会での質疑を通じていただいた御意見などをまとめております。

第1回保護者説明会で調査結果を報告いたしました。これらの内容も基本構想を作成するに当たり参考とさせていただきます。

3ページに、アンケートの回収率をお示ししています。保護者が89パーセント、教職員は100パーセントの回収率でございます。

4ページをご覧ください。その時の結果をグラフに表したものでございますが、この棒グラフで1番長いところを見ていただきますと、「⑥防災性・防犯性など、安全・安心な教育環境の整備」が学校の職員、保護者からともに、多く御意見をいただいております。

続いて、5ページを御覧ください。同じくアンケート調査で配慮してほしい教室等を伺ったのですが、棒グラフの1番長いところは「①教室」です。やはり子供たちが、1番長く時間を過ごすところで、こちらへの思いが教員も保護者も強いということになります。

そして2番目が「⑬トイレ」で、ここも子供たちが必ず利用していくということで大事なところになると考えております。また、「⑥図書室」なども保護者、教員いずれも高い割合となっております。

では、続きまして6ページを御覧ください。このアンケート調査では、自由記述で色々な御意見等もいただいております。資料のように主な意見をまとめています。例えば、「1 校舎全体」の一つ目のマルでは校舎を一つにして一体感

を出す。今は、新館と本館とが離れている状態なので、これらを一つにして一体感を出してほしいという意見と受け止めています。

また上から三つ目のマルにもありますように、学校での異学年での交流について、現在は新館に下級生がいて本館に上級生がいることもあって、縦割り活動や異学年交流が、より行いやすいような教室配置であると良いといった意見が出ています。

続きまして、7ページを御覧ください。「11 児童からの校舎建替に係る意見」でございます。こちらでは、3月に町長が海田東小学校を訪問いたしまして、児童代表とランチミーティングを通じて新校舎に盛り込みたい機能や設備等について意見交換を行った際に、子供たちから出たアイデアなどをまとめております。例えば、「1 校舎全体」の一つ目のマルでは、教室の床は掃除しやすい仕様にしてほしい、各教室の前には手洗い場を設置してもらいたいといったような意見や、二つ目にありますように、冬場に温水が出るとか、子供たちからは実際の使用感を考えながら、率直に意見を出していただいています。

こうした意見も、基本構想の策定に当たり、参考にさせていただいているところでございます。

続きまして、8ページを御覧ください。「12 海田東小学校校舎建替に係る整備コンセプト・整備方針」でございます。

海田東小学校の校舎建替に当たっては、先ほどお示しした海田町立学校の

校舎建替の基本理念をベースとしつつ、海田東小学校の強み・特長、そして海田東地区の将来像をコンセプトに据えて、特色・魅力ある学び舎作りを進めてまいりたいと考えております。

海田東小学校の強み・特長は、資料の枠囲みの下線部分でお示ししていますが、「学校規模を生かした活力ある教育活動」については、海田東小学校は、海田町内では海田南小学校に次いで、児童数の多い学校でございます。そういったところを生かした教育活動ができるような学校をという意味でございます。また、「様々な文化に自ずと触れ合える環境」については、海田町には外国籍の子供たちもたくさん学校に通っております。特にこの海田東小学校区は、町内の中でも 1 番外国籍の児童が多い現状がございますので、そういった強い特長をコンセプトとして挙げさせていただきました。

続きまして、9 ページを御覧ください。こうした考えのもと、先ほどの基本理念、「つくる、つづく、つながる」と、さらにこの海田東小学校の整備コンセプトから、学校の強み・特長である「学校規模を生かした活力ある教育活動」や「様々な文化に自ずと触れ合える環境」、そして海田東地区の将来像を組み合わせ、資料右側のように整備方針を整理しております。一つ目は、「活力ある教育活動と温かな居場所が交わる学び舎づくり」、二つ目は、「伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」、三つ目は、「地域と共に未来を築く学び舎づくり」でございます。この三つの整備方針に基づき施設整備の方向性を 9 の中項目と 18 の小項目でまとめております。

次のページを御覧ください。これが整備方針の全体像となっております。

例えば「①活力ある教育活動と温かな居場所が交わる学び舎づくり」につきましては、「同学年・異学年交流を促進する空間づくり」や「居心地のよい快適な空間づくり」, 「②伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」では、「言語的コミュニケーションに頼らない学校施設の整備」や、「伝統を継承する空間づくり」, 「③地域と共に未来を築く学び舎づくり」では、「学校と地域が支え合い協働していくための空間づくり」や、「災害に備えた学校施設の整備」のように整備方針①から③の内容に沿って体系的に項目を整理させていただきました。

また、これらの項目の中で、特に注力する三つの項目を重点項目として位置付けまして、下線を引いている三つを重点項目として位置付けております。最後に、これらについて説明をいたします。

まず、一つ目の重点項目について、11 ページをご覧ください。

「整備方針①活力ある教育活動と温かな居場所が交わる学び舎づくり」の「同学年・異学年交流を促進する空間づくり」に連なる項目で、「学びの中心となる学校図書館の整備」でございます。

色付きの四角囲みの中にイメージ例を記載しておりますけれども、例えば、学校図書館を学びの拠点に位置づけ、全学年の児童がアクセスしやすい場所に配置し、学年を超えて様々な人が集い、学び合う交流の場としたり、その他にも、児童クラブの利用児童が学校図書館でも読書を楽しみ、自習することが

できるよう、児童クラブからアクセスしやすい場所に整備したいと考えているところがございます。

続いて、12 ページを御覧ください。重点項目の二つ目でございます。

こちらは整備方針①に連なる「快適で温かみのある空間の整備」でございます。

イメージ例にございますように、学校は児童にとって学習の場であるとともに、日常的に過ごす生活の場でもあることから、安全・安心に配慮し、児童がゆっくり落ち着いて過ごすことができる快適で温かみのある居心地の良い空間を整備したいと考えております。

また、児童のリフレッシュする場として、適宜休憩を取ることができるようなスペース、 また、雨天時でも室内で遊びを楽しむことができるレクリエーションスペースなど、児童一人ひとりが過ごし方を選べる多様な居場所を整備したいと考えているところがございます。

続いて、13 ページをご覧ください。重点項目の三つ目でございます。

こちらは「整備方針②伝統と多彩な文化が息づく学び舎づくり」の「言語的コミュニケーションに頼らない学校施設の整備」に連なる項目で、「誰もが直感的に分かりやすいアプローチ計画・サイン計画」でございます。

イメージ例にございますように、児童だけではなく、外国人をはじめとする地域住民の方々も含めて、利用者にとって誰もがスムーズに、目的地とそこに至るまでの動線が分かるように施設全体をデザインするとともに、校内の案

内表示にはピクトグラムを取り入れるなど、誰もが直感的に分かりやすいサイン計画にしたいと考えているところでございます。

説明は以上となります。どうぞよろしく願いいたします。

○町長（竹野内）

はい、ありがとうございました。

以上の説明を受けまして、委員の皆様、何か御意見や御質問等はございますか。

○教育委員（米丸）

資料2の建替えに係る基本計画のところ、基本計画・基本設計・実施設計を一括発注することによって、具体的にどの程度、事業期間が短縮されるのでしょうか。

○事務局 学校教育課課長補佐（重西）

基本計画・基本設計と実施設計を分離発注した場合と比較して、概ね2.5か月の短縮を見込んでおります。

○町長（竹野内）

よろしいでしょうか。他いかがでしょうか。

○教育委員（大野）

今回の最終案の説明を聞いていて、とても良いと思った点が二つありました。一つ目はアンケートや児童の意見等を踏まえた上での基本構想になっているというところです。教職員も毎日生活していて、学校の不便さや、ここが

こうだったら良いのということ、日々の生活の中で感じていると思うのですが、そういう意見を取り入れてもらっていると感じました。建替えがすごく楽しみです。

二つ目は、児童クラブと図書館をなるべく近くにしようとしているところです。なぜかという、少し話が飛んでしまうかもしれないのですが、朝7時ぐらいに子供さんを保育所に預けに行かれる保護者の方を見かけたのですが、その時に、小学校の集団登校は7時半ぐらいなので、この集団登校までの20分間を1年生はどうするのだろうとふと思ったのです。テレビでも小1の壁というのは言われますが、共働きをしている家庭では保育園までは良いけれども、小学校に入ったらどうするのだろうと置いていたところ、地域のニュースで、朝に体育館を開放して、そこにシルバー人材センターの方が行かれて、体育館で学校が始まるまでの時間を過ごすという形を実践されている様子が流れたんですね。それを見た時に、そういう意味でも図書室と児童クラブ、さらに言えば体育館も近くにあれば利用しやすいだろうと思ったので、今日の説明を聞いて、この2点が良いと思いました。以上です。

○町長（竹野内）

1点目の教職員や使っている方々の意見というのは、利用者視点であるとか、エンドユーザーの方々のニーズに光を当てて、声を聞いて、施設の整備に活かしていくというところが非常に大事な考え方だということで、基本構想段階ではこういったアンケートを行いました。今後、基本計画そして基本設計、

実施設計の中でも、必要に応じてワークショップや、色々な方法はあるかと思  
いますけれども、御意見を吸い上げられるような仕組みができれば良いと思  
っています。

また、学校図書館を色々な教室や児童クラブからアクセスしやすい場所に  
配置することにつきましては、私は海田小学校出身ですが、学校図書館は別棟  
にあって、アクセスしづらいと感じていて、本を読むという習慣をつけるとい  
う意味においても、学校図書館を学校の真ん中に置くというのは重要になっ  
てくるのかなと思いました。

#### ○教育長（森山）

2点目の児童クラブの学校図書館利用についてですが、土曜日や夏休み等  
に朝から夕方まで1日中、児童クラブで過ごす子供がいます。その時に、学習  
や狭いスペースでの活動だけではなくて、時間を決めて、例えば夏休みは暑い  
ですが体育館で動くとか、エアコンが効いた図書館で本を読むなど、子供たち  
に選択肢を与えて、多様な活動をしてもらいたいということが出てきた発想  
です。

ただ、普段の学校生活との区切りというところも当然必要なので、施設上の  
ゾーニングや区分けをするような扉などは配置の中で考えていって、切り分  
けはしていかないといけないと思っています。こうした点について配慮しつ  
つ、子供たちが慣れた環境の中で読書に親しむことができればいいなという  
思いで考えた案であり、学校図書館を1日過ごす中での一つの活動場所とし

て位置づけたいと考えています。

○町長（竹野内）

私の娘は、今児童クラブに預けていますが、昨今の異常気象で熱中症アラートが出ると、体育館も使えなくなってしまって、1日中すし詰めな部屋で過ごすわけです。そうした中で、空調の効いた学校図書館が使えるというところは行動の選択肢が増えるということになりますよね。

○教育委員（竹岡）

海田町立学校の校舎建替の基本理念の中に「子供たちにとって」という言葉があったと思います。子供たちにとって、魅力的で居心地の良い空間で、また明日行きたい学校になってほしいと本当に感じていて、こういう言葉が入っているのはとても喜ばしいと思いました。

ただ、その子供たちを支えるのは誰なのかという点、教育委員会、地域の方々、保護者もそうですが、やはり現場の教員の先生方だと思います。その先生方の働きやすさというのもとても大事だと感じています。資料3の5ページの中に、配慮してほしい教室が棒グラフで示されていますが、この中で、職員室は少し棒が短いように見えるかと思うのですが、先生方の回答では28.7パーセントで上位三つの中に入っています。これは、先生方が、自分たちのためだけではなくて、ひいては子供たちのためになるということで、いかに先生方が子供たちを支えられる環境にできるかというところもしっかり考えていただきたいと思います。これは基本構想なので、これから最終決定に向けて

詳細が決まっていくと思いますが、「子供たちにとって」という部分も、現場の先生と子供たちが一緒に考えながら、何が自分たちにとってなのか、何が子供たちにとってなのかということを、小学生も含めて一緒に考えながら細かく決めていけると良いと感じました。

もう1点、先日体験した話なのですが、新築された精神科の病院を見学する機会がありまして、利用者が籠れる場所の安全配慮や、オープンなスペースとパーソナルなスペースをどう両立させるかというところに精神科の病院ならではの工夫がありました。また、家具もこういうものがあるのかと色々な発見がありました。これから詳細を決めていく時に、学校以外の異業種も含めて色々なところを見ていくと意外な発見があるように思ったので、そういうものも参考にできると良いと思いました。

○町長（竹野内）

そうですね、先生方の働きやすさが、ひいては、子供たちの学びやすさに繋がってくるということですね。

先日、教育委員会と叡智学園に行ったところ、職員室がかなりオープンで、授業の合間に子供たちが先生に質問に行くのに非常に垣根が低くて、コミュニケーションしやすいような設えになっていました。あとは先生同士もコミュニケーションしやすいような環境で、込み入った話をするときのスペースもあり、先生方の働きやすさにも色々配慮されていました。先ほどの病院も含めて、学校だけではなく、色々な用途の先進事例等を踏まえて、より充実した

学校生活を送れるように整備していきたいと思います。

○教育長（森山）

先日学校図書館の視察で行った県北の小学校は、全て木造の100人ぐらいの小さな学校だったのですが、そこは中央の階段の下にトンネルがあって、子供たちはそこでちょっと隠れて静かに過ごすことができますのです。ただ方向を変えると子供たちの姿がよく見える仕組みになっていました。パーソナルスペースの活用でいうと教室の横にブックラウンジ的なスペースがあって、椅子に座って本が読める場所があり、機能面では特別支援学級が二重扉になっていて、音に敏感な子に配慮できるような仕組みになっていました。配慮していけば、色々なものを取り込まないといけないので、限りは当然ありますが、先ほど言われたように、全体での利用の価値と、それから個別に割り振った時の利用の価値というのはバランスを取って、色々な機能を参考にしながら取り入れていかないといけないと思います。ここに配慮できることが、一人ひとりの居心地の良さに繋がってくると思いますので、保健室や相談室など、色々な面でぜひ専門家の知見を取り入れながら進めていきたいと思っています。

○教育委員（大野）

職員室ということで私も同じ意見ですが、視察に行った大崎上島の小学校で、職員室内で部会等の会議がすぐ開けるように机の移動ができるような仕組みにしている、自分の持ち物はケースに入れて、机は自由に使えるというような工夫をされているところがありました。職員室は固定されているイメー

ジがありますが、そうではなくて、目的にあった話し合いができるようなスペースを求めている部分もあるのかなと思いました。

○町長（竹野内）

そういったケースを含めて、現場の声を拾いながら設えを考えていくというところが大事になりますね。

その他どうでしょうか。

○教育委員（林）

今日の説明の 12 ページ、「快適で温かみのある空間の整備」のイメージ例のところに児童一人ひとりが過ごし方を選べるとあって、こういうところをきちんと考えていくということは大事ですよ。ただ、快適な空間作りは、ただ居心地が良いだけでは駄目で、学びにとって居心地が良い、学びそのものを促進するような快適さみたいなことも少し欲張って考えてほしいと思います。あと、一人ひとりというのは、個別最適化ということに関わってきますが、それだけではなくて、二人や数人であったり、もっと大きな単位であったり、そういう形に色々変化して使っていけるような居場所というのも考えてほしいと説明を受けながら感じました。

学校というところは住まう場所でもあり、憩う場所でもあり、やはりまた学ぶ場所でもあるので、そこにどう繋がっていくのかを考えてみてほしいと思います。

今回学校図書館のことをたくさん取り上げてくれていて、これは嬉しいな

と思います。学校の真ん中にあれば動線の中心にあるということでアクセスしやすく、どこに行くにも通過していけるので良いなと思いました。

また、1年生から6年生までの異学年交流というだけではなくて、1年生が2年生、2年生が3年生になるという学年進行が感じ取れる空間というか、自分たちが成長していくのがわかるような、そんな仕組みの建物にできないかなというのは思います。もう今は廃校になった三良坂町の灰塚小学校は全部の学年が複式になっていましたが、低学年の1・2年生、中学年の3・4年生、高学年の5・6年生と、段差があって少し上がっていくんです。また、以前の会議でも言いましたが、矢野南小学校は1・2・3年生、4・5・6年生と学年が上がっていくのにあわせて、2階から3階へと上へ上がっていくコンセプトで作ったんですね。そういう意味で、交流も良いのですが、学年が進行していく感じも取り入れて考えていけると良いと思います。

#### ○町長（竹野内）

1点目の学びの居心地の良さというところで、フレキシブルな使い方ができることが大事なのかもしれません。一人で学ぶ、グループで学ぶなど多様な学び方にあわせてアジャストできるような設計が大事だと思いました。

2点目は学年進行感というところで、矢野南小学校は、私が大学生の時に校長先生に頼んで、夏休みに少し見学させていただいたことがあります。確かに、段階的に成長していることが実感できるような、見てわかるような設計だったと記憶しています。核家族化が進行してしまっていて、兄弟がいない一人っ子家

庭も非常に多くなってきているということもありますので、学校の中で、疑似家庭ではないですが、お兄ちゃんお姉ちゃん的な先輩と過ごすということを、閉鎖的ではなくて、オープンな縦割りのな感じで交流できるように、目に見えてわかるようなものになると、情操的にも非常に良いと思いました。

#### ○教育長（森山）

年次移行でいうと、昨日、幼保小担当者合同研修会でしたが、保育園・幼稚園から1年生へのギャップをいかに無くすかという工夫は色々な学校でされていました。例えば、玄関について1年生だけは教室から直接グラウンドに出られるような位置に配置して、2年生から6年生までが下駄箱を使用するという話がありました。1年生は直接外に出られて、出たらすぐにアプローチがあって菜園のような土に触れる場所がある等ですね。

また、昨日の研修時に、小学校の先生に遊びの体験をしてもらって、学校で使えるものはないかということで一生懸命やられていました。今海田町でも幼保から小学校への接続には力を入れているので、学校の中でもそういうプロセスが踏めるように建物を工夫できればいいですよ。

ただ、あまりに切り離しすぎて1年生のことを特別扱いすると、それはそれで1年生から2年生に上がる時のギャップを作ってしまうと意味がないので難しいところですが、そこをうまく考慮しながら、人と人との交流と、それから自然の中で培って成長していく部分とが繋がっていけば良いと思っています。

○副町長（山崎）

小学校や中学校の建物で、今までのよくあるオーソドックスな学校は、大体1年生が1階で、段々学年が上がっていくのにあわせて上階に行くという作りが多いと思いますが、もちろん階段を上がるという体力的な部分もありますが、子供たちの上の階に上がっていくことへの憧れというような思いにも繋がっているのだと思います。先ほど教育長が申しましたように、1年生はやはり職員室から近いところ、目の届きやすいところみたいな配慮も必要ですし、そこから2年生へと上がっていくと。さすがに今回6階建てにするわけにはいきませんが、その辺りをどういう風に接続していくかっていうのは考えていきたいと思っています。

○教育委員（竹岡）

学年進行について、1年生と6年生は身体も違いますし、発達段階も違います。学年進行を考慮するのであれば、その発達段階というようなことも考慮に入っていくと良いと思います。教室から直接外に出られる1年生だけ特別なのかと言っても、発達段階から考えるとそういうことも必要だろうとか、低学年はまだ注意が散りやすいのでそういう学年の子にオープンなスペースってどうなのだろうと。6年生になってくると、だいぶ自分で注意のコントロールができるようになってくるので、そういう中で、オープンなスペースで注意をコントロールしながら、自分の過ごしやすさを探していけるという形で、発達段階に応じてという視点にも配慮すると、面白いものができるように思いま

した。

○町長（竹野内）

1年生と6年生では身体の大きさも、精神面も含めて全く違いますから、同じ設えで良いのかというのはありますよね。

○教育委員（大野）

同じ意見ではあるのですが、学校で働いていらっしゃる先生方の視点から言うと、先生方は一番に安心・安全面を考えますよね。となると、低学年は、幼保から上がったばかりの年齢ですから、この6年間の年齢差というのは大きく、発達の実態としてその通りだと思います。

そして先生方は、もしもの場面やマイナスの事例も考えて行動されていて、年間計画や危機管理をされていると思います。もしもの時を考えるとやはり1年生は1階で見るのが1番動きやすいし、何をするのにも良いだろうと。下駄箱も、高いところから取るのではなくて、低いところにするとか、身近な場面での配慮も先生方の思いを取り入れた結果だろうと思います。

ですので、先ほど言われたとおり1年生から6年生は発達段階が違うので、学校の先生の意見を取り入れながら、図面の上だけの議論や結論ではなくて、実際に動いてみて、何かあった時の想定をしながら次の具体的な話をすると良いのかなと思いました。

○教育長（森山）

教室の縦横の長さ一つとっても、横に長くして8列作ると、中央に立った時

に視野に入らない子供たちが出てきます。そうすると、授業をしても先生の視野に入らない子がいて、手悪さに走って、声もかけないまま1時間過ごしてしまいます。逆に、縦に長いと奥が遠すぎて後ろの方が見えないということになります。ですので、教室の学びやすさといったところでも、先生の管理のしやすさや安全性も含めた部分で、子供たちの快適な学習が進むように考えていきたいと思います。

先ほど申し上げた県北の小学校は、人口増ということを考えていないので一クラス当たり25人設定で作っているのです。今の海田町内にある学校は標準で、25人設定だとすごく小さいですが、先生方は当然視野もきっちり行き届くし、学年によっては20人ほどのクラスもあるので子供たちにとっては広さもあります。

やはり環境というのは子供たちの学習をすごく左右しますので、本町の学校規模にあった適切な広さだとか、そういうところを次の計画設計の中で具体的に入れていかないといけないでしょうね。

また、学年を超えての交流といった言葉を具体化する時に、どのように反映させていくかということは、しっかり意見をもらいながら進めていくということが大切だろうと思います。構想段階では抽象的な表現が多いので、それをさらに突き詰めていくために、意見を聞いたり、専門家の知見を使っていければと思います。

○町長（竹野内）

他はどうでしょうか。

○教育委員（米丸）

今の小学校は、昭和の時代の高度経済成長の時から、どんどん学校も児童も変わっていった、パソコンなど色々な設備も変わってきています。これから整備するとなると、あれも入れたい、これもやりたいという思いは皆さん当然ありますよね。今ない部分というのはとても魅力的に見えるものです。

今度はそこから設計になって、限られた中でも、できるだけ将来の変化も見越して、令和の時代に広島県の海田町で新しい学校を作っていくという中で、あそこは良いものを作ったよねと言われるものを作ってもらいたいと思います。子供たちが誇りを持って学校に通うことができるように、今の時点でできる良いものを作れたら良いと思います。

○町長（竹野内）

町内だけではなく、町外からもしっかりと評価をいただけるような学校づくりをぜひやっていきたいなと思います。

事務局から説明がありましたように、基本計画から基本設計、実施設計を一体化させて発注するというので、プロポーザルで設計能力の高い業者を選ぶ形式で行いますので、今から評価基準等、プロポーザルの準備をしっかりと行ってまいりたいと思います。

その他どうでしょうか。

○副町長（山崎）

最後に教育委員の皆様。今回の基本構想について、教育委員会の事務局の職員が、佐々木前教育長、それから森山教育長の指導の元に、全部自分たちで議論をしながら積み上げて作ってきたものです。ですから、総花的なものではなくて、海田の小学校をどうしたいか、海田東小学校をどうしたいかというところにフォーカスをして、かなり要点を絞った形で作っておりますので、これを元にこれから設計に入る時に、業者と事務局の職員がきちんと思いをもって議論できると思います。ですから、ぜひ教育委員の皆様にはその職員の頑張りを褒めてやっていただきたいのと合わせて、これから設計に入っていくにあたって、ぜひ職員を支えてやっていただきたいと思いますので、改めてよろしくお願いたします。

○教育委員（大野）

色々な意見を言わせていただきましたね。どうもありがとうございます。

○町長（竹野内）

これらをいかに具現化していくかっていうところが次のテーマだと思います。

メインテーマは以上ではございますが、海田東小学校の建替に限らず、その他何か御意見、御報告、情報提供も含めて何かございましたら、せっかくの機会ですのでいかがでしょうか。

○教育委員（林）

海田東小学校の基本構想ができてきて、今度は海田小学校も後ろに待って

いますが、こちらの予定はどのようになっていますか。

○教育長（森山）

今の予定でいきますと、来年度中に基本構想の着手を目指したいと思っています。

ですので、建てる工期も含めて1年半とか2年のずれぐらいで動いていくようなイメージで、令和8年度の頭には基本構想ができあがっているスケジュールが一番綺麗なのではないかと考えていますので、あまり間は空かない予定です。ですので、途中から並行して進めていくイメージで、今は事務局内と町長部局を含めて計画を考えているところです。

○教育委員（林）

大変だと思いますが、待っているところは待っている状況だと聞いていますので。

○町長（竹野内）

海田小学校の保護者からも、校舎が老朽化でダメージを受けているという心配の声もいただいていますので、できるだけ早期に基本構想の着手に取り掛かりたいと思います。

他いかがでしょうか。

○教育委員（大野）

夏休みの子供たちの過ごし方について地域で話題になっています。夏休みにちょっと集まる場所づくりができれば良いねという話をしていたり、すご

く関心を持たれている方，子供たちのことを温かく見守っている地域の方もいらっしゃるのだと思いました。それぞれの学校の児童をすごく熱心に見ていらっしゃるって，夏休みに一緒に勉強してもいいよと言われる方々もいらっしゃいます。役場で勉強している，織田幹雄スクエアで勉強している，ひのうらセンターで勉強している，ちょっとした玄関のところで勉強している子供たちの姿を見て，何かお手伝いすることがあったらなという声もあると。一部かもしれませんが，そういう子供たちの姿や，町が取り組んでいることを地域の方も見ていらっしゃるのだと思いました。

○町長（竹野内）

私が中学生の時は自習室難民で，夏休みは図書館しかなかったので，2階の会議室のような部屋で，一人で勉強して，寂しかった記憶がフラッシュバックしています。

○教育委員（大野）

本当に地域の方は見ていらっしゃいます。あそこで勉強している，ここでも勉強している，あの姿って良いねと言われているので，そういう声も大切にしていって，これからも続けられたらと思いますのと，何か協力できることがあればという声もあるということをお伝えさせていただきます。

○教育長（森山）

役場の1階はよく利用されていますね。子供たちも，成人された方もよく使われていますよね。

○副町長（山崎）

ぜひ見て帰ってください。夏休みで皆さん本当によく使ってくれています。

○教育委員（竹岡）

我が子も役場の1階を使わせていただいています。最初は空いていてとても良いと言っていましたが、どんどん利用者が増えてきたと言っていましたね。それで、どんな子がいるのかを聞くと、割と大学生やそれ以上の大人のような気がすると言っていて、子供たちにとっても良い取組みですが、大学生や大人の学び直しだとか、そういう方たちも利用されているんだと感じました。夏休み前に、広報かいたで学習スペースの案内が掲載されたと思いますが、こういう取組みが町の住みやすさに繋がっているような気がしました。夏の暑い日にどこで過ごすかについて、「あそこの町は良い場所がいっぱいあるよ」とか、「子供の頃はあそこで勉強したよな」といったことが住みやすさとか、あそこは住みやすかったなという記憶として思い出されるのだろうという感じがしました。

○町長（竹野内）

ありがとうございます。積極的にサードプレイス化を進めてまいります。

○副町長（山崎）

本当に子どもたちは上手に使ってくれています。役場は多目的室という会議室的なところを自習室にしている、部屋の外側の交流スペースは飲食やお喋りをしていても良いとしています。お弁当を持ってきて、食べる時だけ交流ス

ペースで食べたりとか、放課後はトランプをしたりとか、使い分けてくれています。他にも福祉センターでは、1階でお喋りをして、2階は自習という感じですごく上手に使ってくれていると感じます。

○教育委員（大野）

それは地域の方も見ていらっしゃると思います。

○町長（竹野内）

私も含めてやる気に火がつかしました。評価していただけるということは職員のモチベーションにも繋がってまいりますので、ありがとうございます。

その他、よろしいでしょうか。

それでは会議の議題は終了いたしましたので、本日は終了させていただきたいと思います。皆様、本日は、前向きかつ未来志向な御意見と、最後には温かいお褒めの言葉もいただきまして、誠にありがとうございました。皆様からいただきました御意見は、今後の基本計画、実施設計、実施段階において参考にさせていただきます。また、基本構想の最終案について、今日いただいた御意見をどういった文言でどのように含めるかについては事務局に一任させていただけたらと思いますがよろしいでしょうか。

○教育委員（一同）

はい。

○町長（竹野内）

はい、ありがとうございます。では、そのようにさせていただきます。

今後とも、町長部局と教育委員会事務局が一致団結をして、同じ方向を向いて、本町の教育行政をしっかりと進めてまいりたいと考えておりますので、引き続きにはなりますが、皆様の御支援、御協力のほどよろしくお願いを申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。